

大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果

平成31年4月

文部科学省

1. 調査の目的

平成29年4月に取りまとめた前回調査以降の大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況を把握するとともに、令和元年度に予定する慰霊施設への集約や地域返還の手続きを遺漏なく実施するため、前回調査で遺骨を保管していないと回答した大学等を含む全大学等に対し、改めて確認調査を実施した。

2. 調査の時期

平成30年10月15日～同年12月21日

3. 調査の対象

国立大学：86大学、公立大学：92大学、公立短期大学：17大学、
私立大学：609大学、私立短期大学：316大学、
大学共同利用機関法人4法人

※博物館等が保管する御遺骨についても文化庁において調査中であり、取りまとめ
り次第公表予定。

4. 遺骨を保管している大学の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している大学の数は12大学である（前回調査と同じ）。
（北海道大学、東北大学、東京大学、新潟大学、京都大学、大阪大学、札幌医科大学、大阪市立大学、南山大学、天理大学、岡山理科大学、東京医科歯科大学）
- ・個体ごとに特定できた遺骨は1,574体（前回調査より▲102体）である。
うち、個人が特定できる遺骨は21体（前回調査より▲17体）である。
- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が346箱（前回調査より▲36箱）に納められている。
（注）箱の大きさは大学により異なる。

（今回の調査において遺骨の数が減少した主な理由）

- ・訴訟の和解による引渡
- ・自治体への移管
- ・大学の記録に基づく再整理 等

大学名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
		うち、個人が特定できる遺骨	
北海道大学	942体	17体	331箱
東北大学	20体		1箱
東京大学	201体		6箱
新潟大学	16体		2箱
京都大学	87体		
大阪大学	32体		1箱
札幌医科大学	264体	4体	
大阪市立大学	1体		
南山大学	1体		
天理大学			5箱
岡山理科大学	1体		
東京医科歯科大学	9体		
計 12大学	計 1,574体	計 21体	計 346箱

5. 個体ごとに特定できた1,574体について

(1) 大学が保管に至った時期・経緯

①時期

戦前においては、1878年から1944年までの期間に830体（約53%）が収集され、戦後においては、1947年から2014年までの期間に622体（約40%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明の遺骨が122体（約8%）ある。

②経緯

「研究のための収集」による遺骨が894体（約57%）あり、「(地方公共団体や個人等の)他者からの寄託」による遺骨が405体（約26%）、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が213体（約14%）、その他の場合が2体ある。また、大学が保管に至った経緯が不明の遺骨が60体（約4%）ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前においては、827体(約53%)が発掘・発見され、戦後においては、571体(約36%)が発掘・発見された。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が176体(約11%)ある。

(注) 1980年以降に発掘・発見された遺骨は、遺跡の発掘や工事中の発見による。

②経緯

発掘された遺骨が901体(約57%)、墓地改葬に伴う遺骨が219体(約14%)、工事や地質調査等の際に発見された遺骨が117体(約7%)、その他の場合が35体(約2%)ある。また、発掘・発見された経緯が不明の遺骨は302体(約19%)ある。

③発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が785体(約50%)、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が354体(約23%)、個人等、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が91体(約6%)、発掘・発見した主体が不明の遺骨が344体(約22%)ある。

④発掘・発見された場所

北海道が1,364体(約87%)であり、樺太(サハリン)が143体(約9%)、千島列島が48体(約3%)、発掘・発見された場所が不明の遺骨が19体(約1%)である。

(3) 大学に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

頭骨が789体(約50%)、全身骨が676体(約43%)、四肢骨等が53体(約3%)、その他(歯など)が56体(約4%)である。

②遺骨の帰属年代

1868年以降の遺骨が215体(約14%)あり、1867年以前の遺骨が229体(約15%)ある。また、1603年頃以降の遺骨が151体(約10%)ある。帰属年代が不明の遺骨が979体(約62%)ある。

③遺骨の性別

男性の遺骨が384体(約25%)であり、女性の遺骨が295体(約19%)である。性別が不明の遺骨が895体(約57%)ある。

④遺骨の推定年齢

成人の遺骨が1,330体(約85%)あり、子どもの遺骨が187体(約12%)ある。不明の遺骨が57体(約4%)ある。

⑤遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体等により文化財に認定された出土品である遺骨が131体(約8%)ある。

(文化財に認定した地方公共団体等)

北海道教育委員会及び北海道内の1市

⑥副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は664体(約42%)である。そのうち、14体に伴う副葬品は、地方公共団体等により文化財に認定された出土品である。

(文化財に認定した地方公共団体等)

北海道内の2市町

(注) 以上に加え、特定の遺骨との対応が明確ではない副葬品がある旨の回答があった。なお、これらの副葬品には、地方公共団体等により文化財に認定された出土品はない。

⑦保管部局

保管部局が医学系の学部・研究科である遺骨が1,229体(約78%)、大学博物館である遺骨が293体(約19%)ある。また、その他の保管部局である遺骨が52体(約3%)ある。

⑧保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が1,240体(約79%)あり、大学博物館で保管されている遺骨が301体(約19%)ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が33体(約2%)ある。

⑨保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が1,486体(約94%)あり、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が87体(約6%)、紙製の箱に保管されている遺骨が1体ある。

(注) 箱の大きさは大学により異なる。

6. 個体ごとに特定できなかった346箱について

(1) 大学が保管に至った時期・経緯

①時期

戦前においては、1888年から1938年までの期間に104箱（約30%）が収集され、戦後においては、1949年から1973年までの期間に41箱（約12%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明の201箱（約58%）がある。

②経緯

「研究のための収集」による遺骨が107箱（約31%）、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が33箱（約10%）、「（地方公共団体や個人等の）他者からの寄託」による遺骨が3箱（約1%）、収集した民族文化資料の中に含まれて収蔵された遺骨が5箱（約1%）、大学が保管に至った経緯が不明の遺骨が198箱（約57%）ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前において発掘・発見された遺骨が107箱（約31%）あり、戦後において発掘・発見された遺骨が37箱（約11%）ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が202箱（約58%）ある。

②経緯

発掘された遺骨が99箱（約29%）あり、墓地改葬に伴う遺骨が33箱（約10%）ある。土地や地質調査等の際に発見された遺骨が1箱、発掘・発見された経緯が不明の遺骨が213箱（約62%）ある。

③発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が102箱（約30%）、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が31箱（約9%）、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が3箱（約1%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が210箱（約61%）ある。

④発掘・発見された場所

北海道が255箱（約74%）であり、樺太（サハリン）が16箱（約5%）、千島列島が22箱（約6%）、発掘・発見された場所が不明の遺骨が53箱（約15%）である。

(3) 大学に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

全身骨が200箱（約58%）、四肢骨等が11箱（約3%）、頭骨が7箱（約2%）、その他（歯など）が128箱（約37%）である。

②遺骨の帰属年代

1924年以前の遺骨が10箱（約3%）、1603年から1867年までの遺骨が2箱（約0.6%）ある。帰属年代が不明の遺骨が334箱（約97%）ある。

③遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体等により文化財に認定された出土品である遺骨が2箱ある。

（文化財に認定した地方公共団体等）

北海道内の1市

④副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が232箱に納められている。地方公共団体等により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

（注）以上に加え、遺骨が納められた特定の箱との対応が明確ではない副葬品がある旨の回答があった。なお、これらの副葬品には、地方公共団体により文化財に認定された出土品はない。

⑤保管部局

保管部局が医学系の学部・研究科である遺骨が331箱（約96%）、大学博物館である遺骨が13箱（約4%）ある。また、その他の保管部局である遺骨が2箱（約1%）ある。

⑥保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が332箱（約96%）あり、大学博物館で保管されている遺骨が13箱（約4%）ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が1箱ある。

⑦保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が344箱（約99%）あり、紙製の箱に保管されている遺骨が2箱（約1%）ある。

（注）箱の大きさは大学により異なる。

大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果 増減表

前回調査（H29.4取りまとめ）

今回調査（H31.4取りまとめ）

	個体特定 (体)	特定不可 (箱)
北海道大学	1,015 体 【特定遺骨】 34 体	367 箱
東北大学	20 体	1 箱
東京大学	201 体	6 箱
新潟大学	16 体	2 箱
京都大学	87 体	
大阪大学	32 体	1 箱
札幌医科大学	294 体 【特定遺骨】 4 体	
大阪市立大学	1 体	
南山大学	1 体	
天理大学		5 箱
岡山理科大学	1 体	
東京医科 歯科大学	8 体	
計 12 大学	計 1,676 体	計 382 箱



	個体特定 (体)	特定不可 (箱)	増減	増減理由
北海道大学	<u>942 体</u> 【特定遺骨】 <u>17 体</u>	<u>331 箱</u>	<u>▲73 体</u> <u>▲36 箱</u> 【特定遺骨】 <u>▲17 体</u>	訴訟の和解による引渡 大学の記録に基づく再整理
東北大学	20 体	1 箱		増減なし
東京大学	201 体	6 箱		増減なし
新潟大学	16 体	2 箱		増減なし
京都大学	87 体			増減なし
大阪大学	32 体	1 箱		増減なし
札幌医科大学	<u>264 体</u> 【特定遺骨】 4 体		<u>▲30 体</u>	自治体への移管 大学の記録に基づく再整理 和人遺骨の除外
大阪市立大学	1 体			増減なし
南山大学	1 体			増減なし
天理大学		5 箱		増減なし
岡山理科大学	1 体			増減なし
東京医科 歯科大学	<u>9 体</u>		<u>1 体</u>	学内再調査より判明
計 12 大学	計 <u>1,574 体</u>	計 <u>346 箱</u>	計 <u>102 体減</u> 計 <u>36 箱減</u>	

※ 〔 個体特定：同一人物のご遺骨として特定されたもの〔体〕
 特定遺骨：個体特定遺骨のうち個人（身元）が特定されたご遺骨〔体〕
 個体特定不可：個体特定ができていないご遺骨〔箱〕 〕

※下線は今般の再調査によって変動のあった箇所